様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

福島市土湯温泉町地区

平成31年2月

福島県福島市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	福島県	市町村名	福島市	地区名	土湯温泉町地区			面積	21ha
交付期間	平成26年度～30年度	事後評価実施時期	平成30年度	交付対象事業費	2,032百万円	国費率	0.345		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路（市道見附線、市道坂ノ上・下ノ町線外４路線）、地域生活基盤施設（観光交流広場、多目的広場、ポケットパーク等、温泉熱発電情報板、街なか情報板）、高質空間形成施設（市道杉ノ下３号線、熊野神社周辺、歩行支援施設、モニュメント）、高次都市施設（観光交流センター）、既存建造物活用事業（観光交流施設）
	提案事業	地域創造支援事業（公衆浴場「中之湯」整備事業、既存建物改修整備事業（観光交流施設）、街なみ修景整備事業）、事業活用調査（事業効果分析調査）、まちづくり活動推進事業（コミュニティバス（EV車）運行社会実験、小型EV車カーシェアリング社会実験、イベント活動支援、まちづくり活動支援）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	道路（市道見附線）、高質空間形成施設（歩行支援施設）	市道見附線は用地取得困難により事業中止、歩行支援施設は施設構造及び維持管理の課題により事業中止	両事業の中止は、観光客数の数値目標への影響は軽微と判断する
	提案事業	まちづくり活動推進事業（コミュニティバス（EV車）運行社会実験、小型EV車カーシェアリング社会実験）、多目的広場	土湯温泉町地区まちづくり協議会との協議結果から、事業効果が小さいとの判断により事業中止	両事業の中止は、観光客数の数値目標への影響は軽微と判断する
新たに追加した事業	基幹事業	該当無し		
	提案事業	地域創造支援事業（観光交流広場（足湯施設）、ポケットパーク（足湯施設））	観光交流広場、ポケットパーク内に足湯を整備することにより、基幹事業の整備効果を推進する	観光交流広場（足湯施設）、ポケットパーク（足湯施設）が追加されたことは観光交流の増進が期待できる

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
当　初	平成26年度～30年度		該当無し
変　更	該当無し		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	拠点施設利用者	人／年	19,436	H24	23,300	H30	該当無し	32,200	○	あり／なし	基幹事業及び提案事業の相乗効果により目標は達成された。	H31年6月頃
指標2	歩行者通行量	人／日	1,522	H25	1,900	H30	該当無し	1,916	○	あり／なし	基幹事業及び提案事業の相乗効果により目標は達成された。	－
指標3	観光入込客数	人／年	154,890	H24	193,000	H30	該当無し	205,000	○	あり／なし	基幹事業及び提案事業の相乗効果により目標は達成された。	H31年6月頃
指標4										あり／なし		
指標5										あり／なし		

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												

4）定性的な効果発現状況

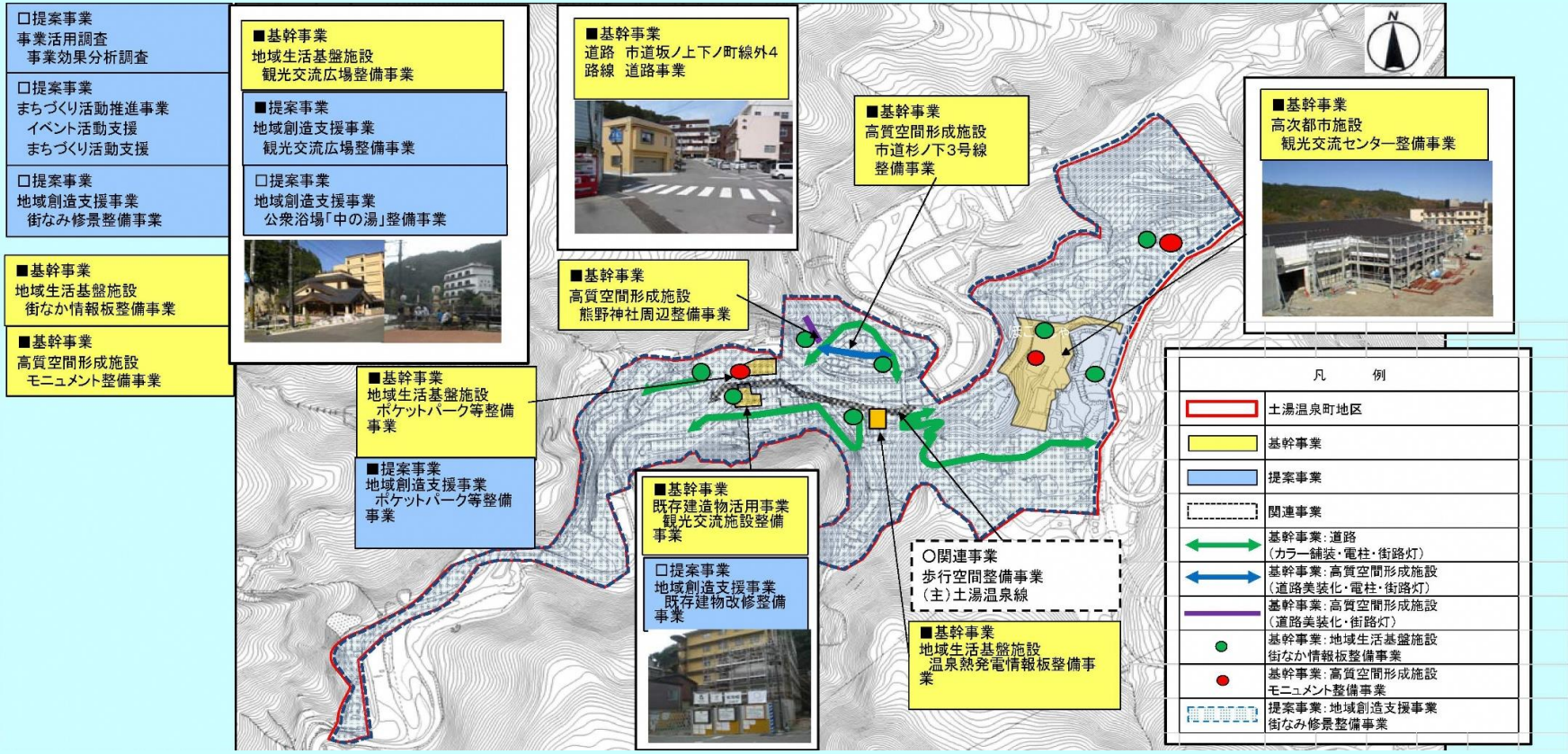
5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング		都市再生整備計画に記載し、実施できた		
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	【土湯温泉町地区まちづくり協議会】 《地域づくり委員会》 ・拠点施設等の整備検討 ・地域まちづくり活動の推進 ・情報発信の仕組みづくり 《環境整備委員会》 ・修景整備の検討及び審査 ・道路美装化等の検討	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	今後は、住民の主体的な活動を市が支援する
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	土湯温泉町地区まちづくり協議会	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	拠点施設整備後の運営については、住民の主体的活動を市が支援する
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

土湯温泉町地区（福島県　福島市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
目　標 大目標　:国立公園の自然環境と古くから栄えた温泉地としての歴史文化、エコ温泉地としての様々な取り組み実績を最大限に活かし、地域一帯で築き上げる「こけし育む　健康・湯の里　土湯温泉」を目指す。 目標1.　地区で行き交うすべての人が安心と快適を実感でき、楽しく周遊できる歩行空間・街なみの形成 目標2.　様々な取り組み実績を活かす観光や地域活動の拠点づくりによる地区内の賑わいの創出と活力の向上	拠点施設利用者	単位：人／年	19,436	H24	23,300	H30	32,200	H30
	歩行者通行量	単位：人／日	1,522	H25	1,900	H30	1,916	H30
	観光入込客数	単位：人／年	154,890	H24	193,000	H30	205,000	H30
		単位：		H				H
		単位：		H		H		H



まちの課題の変化	3つのまちづくりの目標は達成される見込みであり、「歩行者の安全性の向上とまち歩きを楽しめるネットワークの形成」と「観光客、地域住民の交流促進と賑わい創出のための拠点形成」の2つ課題は解消されるが、大目標である、「国立公園の自然環境と古くから栄えた温泉地としての歴史文化、エコ温泉地としての様々な取り組み実績を最大限に活かし、地域一帯で築き上げる「こけし育む　健康・湯の里　土湯温泉」を目指すためには、本事業の成果を活用しながら、観光客と地域住民が一体になってまちづくり活動を継続的かつ長期的に推進する必要がある。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・都市再生整備計画の事業完了を受けて、今後将来に向けて目標とする「まちづくりビジョン」を検討し、行政、各まちづくり団体、地域住民が一体となった協議会組織を検討する。 ・土湯温泉町の根本的課題は駐車場の不足であり、この課題は今後のまちづくりのハード面の重要な位置を占めるものであり、解決策を幅広く検討する必要がある。 ・土湯温泉観光協会、土湯温泉町地区まちづくり協議会、NPO法人土湯温泉町観光まちづくり協議会等の各機関が協働して、イベント活動等の観光客・住民参加型のソフト事業を展開する。 ・都市再生整備計画において見直し中止した事業を再検証して、今後の事業化や代替する施策等を検討する。

都市再生整備計画　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

添付様式3－①　モニタリングの実施状況
添付様式3－②　住民参加プロセスの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

（7）有識者からの意見聴取

添付様式9　有識者からの意見聴取

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		歩行者通行量（H30）2,000人／日 年間観光入込客数（H30）200,000人／年	歩行者通行量（H30）1,900人／日 年間観光客入込数（H30）193,000人／年	平成28年12月に、事業計画の変更・削除（道路事業の減、高質空間形成事業、まちづくり活動推進事業の一部削除等）に伴い、目標値の変更を行った
D. その他（　計画区域　　）	●		計画区域面積　20ha	計画区域面積　21ha	平成27年12月に、地域創造支援事業、街なみ修景整備事業に関し、土湯温泉町地区まちづくり協議会の要望及び住民説明会の結果により、計画区域を全町内会を網羅する範囲にするために区域を1ha拡大して21haに変更した

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
道路	市道見附線	20.2	L＝85.0m 拡幅・改良	0.4	事業中止	用地取得が困難であるため、事業中止	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする	－	－
道路	市道坂ノ上・下ノ町線	87.7	L＝243.0m 融雪装置、美装化舗装、電柱、街路灯	59.3	L＝243.0m 美装化舗装、電柱	事業精査により、減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする	●	
道路	市道上ノ町・堂ノ上線	79.1	L＝320.0m 融雪装置、美装化舗装、電柱、街路灯	63.5	L＝320.0m 美装化舗装、電柱	事業精査により、減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
道路	市道下ノ町・堂ノ上線	38.4	L＝77.0m 融雪装置、美装化舗装、電柱、街路灯	10.6	L＝77.0m 美装化舗装	事業精査により、減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
道路	市道上ノ町・大岩線	78.5	L＝160.0m 融雪装置、美装化舗装、電柱、街路灯	25.8	L＝160.0m 美装化舗装、電柱	事業精査により、減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
道路	市道西ノ道・赤坂線	107.5	L＝506.0m 融雪装置、美装化舗装、電柱、街路灯	25.1	L＝506.0m 美装化舗装、街路灯	事業精査により、減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする	●	
公園	該当無し								
河川	該当無し								
下水道	該当無し								
駐車場有効利用システム	該当無し								
地域生活基盤施設	観光交流広場	85.8	広場、噴水施設等 A＝約450㎡	38.4	広場 A＝約240㎡	事業精査により、減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする	●	
	多目的広場	86.3	広場、ステージ等 A＝約300㎡	0.4	広場、ステージ等 A＝約300㎡	事業精査により、減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする	－	－
	ポケットパーク等	30.5	ポケットパーク等 A＝約150㎡	37.0	ポケットパーク等 A＝約　60㎡	事業精査により、増額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
	温泉熱発電情報板	19.5	情報板　1箇所	5.0	情報板　1箇所	事業精査により、減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
	街なか情報板	5.0	案内板　5箇所	8.0	案内板　8箇所	事業精査により、増額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
高質空間形成施設	市道　杉ノ下3号線	18.1	カラー舗装、街路灯、電柱美装化	11.5	美装化舗装	事業精査により、減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする	●	
	熊野神社周辺	19.0	石畳階段工、街路灯	25.0	石畳階段工、街路灯	事業精査により、増額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
	歩行支援施設	90.0	エレベーター施設整備	－		事業中止により、削除	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		
	モニュメント	15.5	こけしモニュメント 3箇所	7.0	こけしモニュメント 3箇所	事業精査により、減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
高次都市施設	観光交流センター整備事業	639.3	ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ、交流広場、トイレ、展望台、休憩所、既存建物解体	614.9	ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ、交流広場、トイレ、展望台、休憩所、既存建物解体	事業精査により、減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする。		●
既存建造物活用事業	観光交流施設整備事業	247.3	閉館旅館活用　建物2500㎡、敷地800㎡	329.0	閉館旅館活用　建物2172㎡、敷地780㎡	事業精査により、増額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする。		●
都市再生交通拠点整備事業	該当無し								
土地区画整理事業（都市再生）	該当無し								
住宅市街地総合整備事業	該当無し								

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業	該当無し								
バリアフリー環境整備事業	該当無し								
優良建築物等整備事業	該当無し								
住宅市街地総合整備事業	該当無し								
街なみ環境整備事業	該当無し								
住宅地区改良事業等	該当無し								
都心共同住宅供給事業	該当無し								
公営住宅等整備	該当無し								
都市再生住宅等整備	該当無し								
防災街区整備事業	該当無し								

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
地域創造支援事業	公衆浴場「中の湯」整備事業	295.9	公衆浴場施設整備	405.8	公衆浴場施設整備	事業精査により増額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする	●	
	既存建物改修整備事業	106.0	観光交流施設整備	269.2	観光交流施設整備	事業精査により増額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
	街なみ修景整備事業	20.0	街づくり協定による建築物デザインのルールづくり	81.7	街づくり協定による建築物デザインのルールづくり	事業精査により増額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
	観光交流広場整備事業（足湯施設）	－		1.7	観光交流広場整備事業（足湯施設）	H29年12月の計画変更により追加	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする	●	
	ﾎﾟｹｯﾄﾊﾟｰｸ整備事業（足湯施設）	－		1.7	ﾎﾟｹｯﾄﾊﾟｰｸ整備事業（足湯施設）	H29年12月の計画変更により追加	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
事業活用調査	事業効果分析調査	0.5	指標の目標達成状況の把握のための交通量調査	1.0	指標の目標達成状況の把握のための交通量調査	事業精査により増額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
まちづくり活動推進事業	ｺﾐｭﾆﾃｨｰﾊﾞｽ（EV車）運行社会実験	20.0	回遊性向上を図るためにｺﾐｭﾆﾃｨｰﾊﾞｽを循環運行して導入を検討する。	－	事業中止	事業中止により削除	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする	－	－
	小型EV車カーシェアリング社会実験	20.0	回遊性向上を図るため、EV車ｶｰｼｪｱﾘﾝｸﾞの実験により、導入を検討する。	－	事業中止	事業中止により削除	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする	－	－
	イベント活動支援事業	10.0	住民の主体的まちづくりのためのイベント活動を支援する。	4.0	住民の主体的まちづくりのためのイベント活動を支援する。	事業精査により減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●
	まちづくり活動支援事業	10.0	住民の主体的まちづくり活動を支援する。	6.0	住民の主体的まちづくり活動を支援する。	事業精査により減額	拠点施設利用者数、歩行者・自転車通行量、観光入込客数に影響する。数値目標は平成28年12月に変更した目標値とする		●

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費 当初計画	事業費 最終変更計画	事業期間 当初計画	事業期間 最終変更計画	進捗状況及び所見	備考
歩行空間整備事業（福島県事業） L＝250m		（主）土湯温泉線	75	75	平成26年～平成29年	平成26年～平成30年	県において、今年度から事業調整に向けて地元住民と協議を開始した	

添付様式２－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	拠点施設利用者	人／年	平成30年4月以降の月間利用者数実測値のうち、月単位データを取得した5月から10月までの実測値から年間利用者数を推計	－		19,436	H24	23,300	H30	モニタリング	該当無し		モニタリング			
										事後評価	確定 見込み ●	32,200	事後評価	○		
指標2	歩行者通行量	人／日	休日の歩行者通行量（2か所における12時間通行量の平均値）を計測	－		1,522	H25	1,900	H30	モニタリング	該当無し		モニタリング			
										事後評価	確定 ● 見込み	1,916	事後評価	○		
指標3	観光客入込数	人／年	平成23年～29年の入湯税入込数から、平成30年を推計	－		154,890	H24	193,000	H30	モニタリング	該当無し		モニタリング			
										事後評価	確定 見込み ●	205,000	事後評価	○		
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標1	事後評価時点では目標に達成していないが、平成30年5月から10月までの利用者数の実測値から最小自乗法により推計すると1年以内の数値目標の達成の可能性は高い	オープン後の5月の利用者数は、5,290人／月だったが、それ以降は、約3,000人／月と推移している
指標2	事後評価時点では、歩行者通行量の目標を若干超える数値が得られたので目標は達成された	中之湯はオープンしているが、観光交流センターと観光交流施設が工事中だったこともあり、東鴉川沿いの渓流から滝の吊橋の遊歩道を訪れた観光客の集客拠点施設をつなぐ回遊性の効果を確認する事が出来なかった
指標3	事後評価時点では、平成30年の観光客入込数は把握されていないが、東日本大震災以降の平成23年から29年までの実績値から最少自乗法により推計すると205,000人／年であり、数値目標の達成の可能性は高い	東日本大震災後の平成24年の観光客入込数は、154,890人／年と減少したが、それ以降は地域再生に向けた取り組みなどにより、増加傾向にあり、平成29年には203,824人／年と目標値を達成している
指標4		
指標5		

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○ :評価値が目標値を上回った場合あり●●
△ :評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
× :評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式２－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	数値（ウ）			本指標を取り上げる理由	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
その他の数値指標1	該当無し							モニタリング				
								事後評価	確定			
									見込み			
その他の数値指標2	該当無し							モニタリング				
								事後評価	確定			
									見込み			
その他の数値指標3	該当無し							モニタリング				
								事後評価	確定			
									見込み			

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式２－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
該当無し	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			

添付様式３－②　住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
【土湯温泉町地区まちづくり協議会】 《地域づくり委員会》 ・拠点施設等の整備検討 ・地域まちづくり活動の推進 ・情報発信の仕組みづくり 《環境整備委員会》 ・修景整備の検討及び審査 ・道路美装化等の検討	予定どおり実施した	○	〔実施頻度〕 21回（協議会5回、役員会16回）、 〔実施頻度〕 54回（地域づくり委員会31回、環境整備委員会23回） 〔実施時期〕 平成26年度～平成30年度 〔実施結果〕 住民と観光客のための施設整備の検討を行政と住民が協働で進めたことで土湯温泉町地区の愛着がさらに高まり、自発的な取り組みに繋がり、持続可能なまちづくりの体制の組織化に発展した	今後は、住民の主体的な活動を市が支援する
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由　　)			

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
土湯温泉町地区まちづくり協議会	予定どおり実施した	○	住民が主体的に観光交流センター、観光交流施設、公衆浴場「中之湯」の拠点施設を活用しながら集客力向上の取組みを行う	㈱元気アップつちゆ NPO法人土湯温泉観光協会 湯遊つちゆ温泉協同組合	拠点施設整備後の運営については、住民の主体的活動を市が支援する
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由　　)				
	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由　　)				

（3）効果発現要因の整理

添付様式４－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の各課による横断的組織（庁内検討会議）	都市計画課、市街地整備課、観光コンベンション推進室、建築住宅課	第1回　（平成30年11月19日） 第2回　（平成31年1月23日）	都市計画課（都市再生整備計画担当課）

添付様式４－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標○	
指　標　名		拠点施設利用者		歩行者通行量		観光客入込数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
	（道路）市道坂ノ上・下ノ町線道路事業	○	拠点施設「中之湯」は、平成30年4月にオープンし、5月には5,290人だった。その後約3,000人/月で推移しており、目標値の23,300人/月を上回ることが予想される。既存の公衆浴場の建替え改修と併設して観光交流広場を同時整備したことによる相乗効果により、目標値達成に大きく寄与するものと期待される	○	歩行者通行量は、中之湯がオープンしたことで観光客の通行が増えた	○	観光入込客数は、目標値を超えて達成する見込みである。平成24年の154,890人/年から増加に転じて事業中にも関わらず平成27年には、目標値を超える。すべての基幹事業、提案事業が完了すれば、さらに効果が発現され観光入込客数はさらに増加するものと期待される		
	（道路）市道上ノ町・堂ノ上線道路事業	△		△		△			
	（道路）市道下ノ町・堂ノ上線道路事業	△		△		△			
	（道路）市道上ノ町・大岩線道路事業	△		△		△			
	（道路）市道西ノ道・赤坂線道路事業	○		○		○			
	（地域生活基盤施設）観光交流広場整備事業	◎		◎		◎			
	（地域生活基盤施設）ポケットパーク等整備事業	△		△		△			
	（地域生活基盤施設）温泉熱発電情報板整備事業	△		△		△			
	（地域生活基盤施設）街なか情報板整備事業	△		△		△			
	（高質空間形成施設）市道杉ノ下３号線整備事業	○		○		○			
	（高質空間形成施設）熊野神社周辺整備事業	△		△		△			
	（高質空間形成施設）モニュメント整備事業	△		△		△			
	（高次都市施設）観光交流センター	△		△		△			
	（既存建築物活用事業）観光交流施設	△		△		△			
提案事業	（地域創造支援事業）公衆浴場「中の湯」整備事業	◎		◎		◎			
	（地域創造支援事業）既存建物改修整備事業（観光交流施設）	△		△		△			
	（地域創造支援事業）街なみ修景整備事業	◎		◎		◎			
	（地域創造支援事業）観光交流広場整備事業（足湯施設）	◎		◎		◎			
	（地域創造支援事業）ポケットパーク等整備事業（足湯施設）	△		△		△			
	（事業活用調査）事業効果分析調査	－		－		－			
	（まちづくり活動推進事業）イベント活動支援	○		○		○			
	（まちづくり活動推進事業）まちづくり活動支援	○		○		○			
関連事業	（主）土湯温泉線道路整備事業（福島県）	△		△		△			
今後の活用		集客拠点施設（観光交流センター、観光交流施設、中之湯）が連携した取り組みを行うことで来街者増加による賑わい創出を図る		東鴉川沿いの渓流から滝の吊橋の遊歩道を訪れた来街者の他施設への誘導回遊性強化を図る		集客拠点施設（観光交流センター、観光交流施設、中之湯）が連携した取り組みを行うことで来街者増加による交流人口拡大を図る			

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

添付様式４－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標〇		
指　標　名		拠点施設利用者			歩行者通行量			観光客入込数					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
	（道路）市道坂ノ上・下ノ町線道路事業												
	（道路）市道上ノ町・堂ノ上線道路事業												
	（道路）市道下ノ町・堂ノ上線道路事業												
	（道路）市道上ノ町・大岩線道路事業												
	（道路）市道西ノ道・赤坂線道路事業												
	（地域生活基盤施設）観光交流広場整備事業												
	（地域生活基盤施設）多目的広場整備事業												
	（地域生活基盤施設）ポケットパーク等整備事業												
	（地域生活基盤施設）温泉熱発電情報板整備事業												
	（地域生活基盤施設）街なか情報板整備事業												
	（高質空間形成施設）市道杉ノ下３号線整備事業												
	（高質空間形成施設）熊野神社周辺整備事業												
	（高質空間形成施設）モニュメント整備事業												
	（高次都市施設）観光交流センター												
	（既存建築物活用事業）観光交流施設												
提案事業	（地域創造支援事業）公衆浴場「中の湯」整備事業												
	（地域創造支援事業）既存建物改修整備事業（観光交流施設）												
	（地域創造支援事業）街なみ修景整備事業												
	（地域創造支援事業）観光交流広場整備事業（足湯施設）												
	（地域創造支援事業）ポケットパーク等整備事業（足湯施設）												
	（事業活用調査）事業効果分析調査												
	（まちづくり活動推進事業）イベント活動支援												
	（まちづくり活動推進事業）まちづくり活動支援												
関連事業	（主）土湯温泉線道路整備事業（福島県）												

改善の方針（記入は必須）				

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の各課による横断的組織（庁内検討会議）	都市計画課、市街地整備課、観光コンベンション推進室、建築住宅課	第1回　（平成30年11月19日） 第2回　（平成31年1月23日）	都市計画課（都市再生整備計画担当課）

添付様式5－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
歩行者の安全性の向上とまち歩きを楽しめるネットワークの形成	道路整備や道路の美装化を図ることで、歩行者の安全性の確保とまち歩きを楽しめるネットワークが形成されて、歩行者通行量の目標は達成された。	・県道の路面破損による温泉街の景観改善が必要である	特になし
観光客、地域住民の交流促進と賑わい創出のための拠点形成	集客拠点施設（観光交流センター・観光交流施設・中之湯）の整備により、賑わい創出の拠点が形成され観光客・地域住民の交流が促進される。これにより、拠点施設利用者、観光入込客数が増えることで目標を達成される見込みである。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5－③　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	温泉街の賑わい創出	・観光入込客数を増加させるためには、現在不足している集客拠点施設の周辺への駐車場整備と拠点駐車場（観光交流センター）からの温泉街までの誘導を促す必要がある	・駐車場整備と拠点駐車場（観光交流センター）からの温泉街までの誘導 ・歩いて楽しみたくなる、魅力ある温泉街づくり
	温泉街の賑わい持続	・今後は、集客拠点施設を活用（ソフト）した取り組みのを行う必要がある ・NPO土湯温泉観光まちづくり協議会と土湯温泉観光協会が合併しNPO法人土湯温泉観光協会ができた。住民主体の組織が連携したまちづくりを行う必要がある。（元気アップつちゆ、湯游つちゆ温泉協同組合） ・観光交流センター、観光交流施設、中之湯などの施設の維持管理 ・地元による管理を検討中	・集客拠点施設の利用者を増やすイベント開催や広報掲載等の情報発信や花を活用した取組み

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	県道の路面破損による温泉街の景観改善が必要である	事業着手に向けて地元住民と協議・検討	歩行者空間整備事業（福島県事業）

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

✔	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
✔	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
✔	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式4－②）を再確認した。
	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式4－③）を再確認した。
✔	残された課題や新たな課題（添付様式5－②）を再確認した。

添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2－①、2－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2－①、2－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
													予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	拠点施設利用者	人／年	19,436	H24	23,300	H30	確定		32,200	○	あり	○	H31年6月頃	平成30年4月～平成31年3月の利用者数実績から平成30年度の利用者数を確定値として求める	
							見込み	●			なし				
指標2	歩行者通行量	人／日	1,522	H25	1,900	H30	確定	●	1,916	○	あり	○			
							見込み				なし				
指標3	観光入込客数	人／年	154,890	H24	193,000	H30	確定		205,000	○	あり	○	H31年6月頃	平成30年4月～平成31年3月の入湯税入込実績から平成30年度の入湯税入込数を確定値として求める	
							見込み	●			なし				
指標4							確定				あり				
							見込み				なし				
指標5							確定				あり				
							見込み				なし				
その他の数値指標1				H			確定								
							見込み								
その他の数値指標2				H			確定								
							見込み								
その他の数値指標3				H			確定								
							見込み								

添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	東日本大震災により被災した廃業旅館等による景観の阻害と原発事故に伴う放射能の風評被害の影響により、観光客が激減したが都市再生整備計画事業などの取組みにより、歩行者通行量の目標値を達成し、拠点施設利用者と観光入込客数も目標値を達成する見込みとなることで少しづつではあるが、風評被害の払拭につながった。	目標を設定する際は、今後の状況を考慮し設定する
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	拠点施設利用者について、都市再生整備計画事業の最終年度前に公衆浴場（中之湯）がリニュアールオープンしたことで、新たな観光客の取り込みが成功した相乗効果により、歩行者通行量が達成することができた	事業期間内で事業の組み合わせにより、早期に効果発現が表れる事業を設定し着手する事も考慮する
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・地区内住民の積極的な参加により、事業の理解が得られた事でスムーズに推進する事ができた ・行政職員と住民がコミュニケーションを図ることで信頼関係に繋がり、事業がスムーズに進められた	事業を検討する段階から住民の意見を聞き進めることで、持続可能なまちづくりの組織化につながる
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	特になし	
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点	特になし	
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載して公開	平成30年12月3日～12月18日	平成30年12月3日～12月18日	都市計画課への郵便、FAX、Eメールなど	都市計画課（都市再生整備計画担当課）
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	西内　みなみ　桜の聖母短期大学学長	第1回　（平成30年11月26日） 第2回　（平成31年1月22日）	都市計画課	福島市社会資本整備総合交付金評価委員会設置要綱	福島市都市計画審議会 福島市景観審議会
その他の委員	引地洲夫　福島市町内会連合会監事 吉田秀政　一般社団法人福島市観光コンベンション協会事務局長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された
	成果の評価	・歩行者通行量については、目標値を達成している。それ以外の2つの指標（拠点施設利用者・観光客入込数）については、都市再生整備計画事業も含む地元主体による活発な取組みにより、推計値であるが目標値を達成することが確認できた
	実施過程の評価	・土湯温泉町地区まちづくり協議会（地域づくり委員会・環境整備委員会）が主体的となって取り組んだことで、事業の効果発現に大いに寄与しているという意見があった
	効果発現要因の整理	・拠点施設「中之湯」と観光交流広場の整備するタイミングを合わせてオープンしたことは、早い段階での来街者を増やすことに成功したことは事業期間での事業の組み合わせがうまくいったという意見があった ・都市再生整備計画事業以外のバイナリー発電所・東鴉川水力発電所の再エネ事業とオニテナガエビ養殖事業の産業観光による相乗効果で早期に効果が発現したという意見があった
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認された
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・温泉街の賑わいが持続出来るように地元主体による集客拠点施設の利用者を増やすためのイベント開催や花を活用した取組みに期待したいとの意見があった ・都市再生整備計画事業により整備された集客拠点施設を活用した滞在時間長くする回遊環境の形成や管理運営の取組みに期待したいとの意見があった ・交通手段の確保や国道沿いの案内看板整備などの集客力を上げる取組みに期待したいとの意見があった ・広報掲載やSNSを活用した情報発信をさらに展開することに期待したいとの意見があった
	フォローアップ	・拠点施設利用者と観光客入込数のフォローアップを確実に行って市民に公表するようにと意見があった。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた
その他		・特になし

※1　審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

（7）有識者からの意見聴取

添付様式９　有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理（添付様式5）、今後のまちづくり方策の検討（添付様式6）、評価委員会の審議（添付様式9）以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	